

高野 新聞

Vol.79



たかの
高野 たけし

無所属 42歳

逗子市議会議員（4期）

- ・総務常任委員会委員長
- ・基地対策特別委員会委員
- ・議会運営委員会委員
- ・議会活性化推進協議会委員

高野たけしの活動報告

～住みやすいまちづくりに向けて～

6月4日～19日の日程で、平成27年第2回定例会が開催されました。今定例会においても市民の皆様から頂いたご意見、ご要望をもとに一般質問を行いました。（以下に一部掲載）

◆スタートから9か月 今後の課題とは？

昨年10月にスタートした公立中学校の完全給食の喫食率は、開始してからの半年間で80.46%と選択制としてはかなり高い数値となっていました。しかしながら、年度が替わった今年度の数字を昨年度と比較すると、3校全てで進級した学年の喫食率が落ちていました。そこで、喫食率の向上策に今後どのように取り組んでいくのか質したところ、教育委員会からは生徒や保護者のニーズに応じきれない実態があり喫食率の低下につながったと推測している。そこで、栄養バランスやカロリーに配慮しながら生徒が満足できる給食の提供に努めるとともに、保護者に給食への理解を深めてもらうための試食会や調理場見学会などを実施していくとの対応策が示されました。

また、アレルギー対応の給食も提供すべきではとの提案に対しては、現在の体制では調理、配膳の両面から難しい状況にあるとの回答でした。そのため、今後の課題として改善に向けた調査、検討をしていただきたい旨、再度お願いしたところ

です。
さらに、現在は給食を申し込んだ生徒しか牛乳を頼めないようになってきているため、お弁当を持参する生徒であっても牛乳だけでも頼めるようにすべき旨、提言いたしました。これに対しては、注文システムの変更も含め、実施に向けて検討していくとの前向きな回答がありました。

試食会の時の中学校給食



政治資金の残り あと 32,930円

(3/1～5/31の内訳)

支出…ポスター掲示用両面テープ 1,116円

◆サポート体制の構築が継続のカギ！

現在、複数の自治体や団体がゴミの減量化を目的にリサイクル活動を展開しています。多くの物品が新たな所有者の元で使用される結果につながっていますが、引き取り手のないものももちろん出てきています。それらは事業系ゴミとして処分せざるを得ず、それにかかる費用は各団体が捻出している現状にあります。本来であれば各家庭で不要になったものをそのまま市のクリーンセンターに持ち込まれるところ、市民活動を通じて全量を減らす努力をしているにもかかわらず、高額な費用のかかる民間業者への処分を行うよう指導していることにはいささか疑問を感じます。

そこで、市の政策を後押しするこれらの活動から出たものにおいては市で処分するか、事業系ゴミとして処分する費用の一部を補助するなど、リサイクル活動を推進するサポート体制を構築すべきではないかと質したところ、担当部長からはゴミの処理に限らず、どのような形で市民活動をサポートできるか様々な角度から検討していく旨の回答をいただきました。

◆ふるさと納税制度の有効活用を！

今年の4月から、ふるさと納税の控除が（個人住民税所得割額）2倍になると同時に、確定申告が不要な給与所得者に限り確定申告の代わりとなる「寄付金税額控除に係る申告特例申請書」を寄付先自治体へ提出することで税金控除が受けられるようになるなど、手続きの簡素化が進んでいます。これにより、ふるさと納税の活用はさらに進むものと推測されるそうです。

そのため、これまで本市はこの制度を積極的に運用してきませんでしたが、シティプロモーションの観点から新しい食の開発を手掛け特典として寄付者に送ったり、寄付をしたお金をどういった政策に使ってほしいのか選択できるようにするなど、ふるさと納税を有効活用すべき旨、提案いたしました。これに対して担当部長からは、寄付をしたお金の使い道を選択できる制度はすぐに取り組む。また、寄付者への特典の開発、送付等に関しては検討していくとの回答がありました。

視察報告 ～防災行政無線～

現在、逗子市では防災行政無線の難聴地域解消のため基地局の増設を進めています。この防災行政無線に関して、隣の葉山町がエルラド社の新しい形態のスピーカーを昨年度設置したとのことで、視察に行ってきました。

葉山町もこれまでは逗子市と同様のトランペットスピーカーを町内に42ヶ所設置していたようですが、老朽化に伴いトランペットスピーカー23基と全方位スピーカー10基に交換したとのことです。全方位スピーカーはトランペットスピーカーと異なり全方向に音が出るため広範囲に届きやすく、音質も良好で騒音になりにくいとのことです。しかしながら、本体価格が高額であることと、運用時の電気使用量が多くなるとの話も。

葉山町のように全ての防災行政無線を交換する時であれば設置台数や設置場所の見直し等もできるため、全方位スピーカーの導入でメリットを得やすいのですが、逗子市のように追加での設置では効果が薄いように感じたところです。

それよりも、葉山町が近く導入を予定しているJ:COMの防災情報サービスのように、防災行政無線を補完するサービスの活用が有効的であると感じました。そのため、新たな情報伝達ツールを活用できるように防災行政無線のデジタル化を行うことが本市における第一の課題であると考えています。

葉山町の全方位スピーカー



※J:COMの防災情報サービスとは、気象庁が発信する緊急地震速報（高度利用者向け）と、地方公共団体による防災行政無線などの行政情報を発信するもので、当該情報を受信するためには端末を借りる（約300円／月）必要がある。

Topics ～教育環境の改善を求めて～

子ども達の教育環境の改善のため少人数教育の推進を含めた教職員の定数改善と、教育の機会均等と水準の維持向上をはかるため義務教育費国庫負担制度を2分の1に還元することを求める請願の紹介議員として今定例会に提出しましたが、本会議での採決の結果、賛成多数（賛成10人：反対7人）で採択されました。

※義務教育費国庫負担制度とは、市町村立学校の教職員給与費を都道府県の負担とした上で、国が都道府県の実支出額の原則1/3を負担するもの。平成18年度から負担比率が1/2から1/3に変更になった経緯がある。

どーなっているの？

市民の皆様からいただいたご意見、ご要望にお答えするコーナーです。

逗子海岸にはゴミ箱が3ヶ所設置されていますが、「休日などは海岸に遊びに来た方のゴミで溢れかえっている時もあるので、ゴミ箱の利用ルールの周知をしっかりとした方が良いのでは」とのご意見を市民の方よりいただきました。

現在逗子海岸に設置されているゴミ箱の近くには海岸利用に関する禁止事項や注意事項、ルールなどを記した看板が設置されており、そこには「ゴミは必ず持ち帰りましょう」、「バーベキューを行ったら火の始末をしてゴミと炭を持ち帰りましょう」との記載もあります。しかしながら、ゴミ箱の前に立ってもその文字までは視認できませんし、ゴミを捨てる際に看板の前まで行くと考えにくいと思われます。また、ゴミの持ち帰りを推進しているのにゴミ箱を設置しているのはなぜか、と疑問に思われている方もいらっしゃるかもしれません。

こうした状況をどう捉えているのか担当所管にヒアリングしたところ、海岸にゴミ箱を設置していないと街中のゴミステーションや帰り道にある商店のゴミ箱に捨てていってしまう方もいるため、ゴミ箱を撤去するのは現段階では難しいとの話がありました。

そこで、来訪者の多い時期などはゴミの回収頻度を増やしゴミ箱が溢れないよう努めていただきたい旨要望するとともに、ゴミの持ち帰り運動の啓発POPなどをゴミ箱の所にも設置することを提案させていただいたところです。

海水浴シーズンを迎えたことを考えると、海岸のゴミ箱の利用、さらにはポイ捨てゴミの問題など、対応策が急がれます。

海岸に設置されているゴミ箱とルール看板



あなたの声を高野たけしへ

市政に関するご意見、ご要望等がありましたらお寄せ下さい。



Tel / Fax: 046-871-7368

E-mail: takano_zushi@yahoo.co.jp